

尚、Euphonium、Tenor Saxophone などに指定されている、“Play”や“2nd time only”を見逃さないようにして下さい。Trumpet 3、Trombone 1 の B♭ 音は際立った方が良いでしょう。繰り返し後のカウンター・メロディは、Euphonium において、鮮明さが求められます。

<第2 マーチ> 【C】 【D】

【C】の低音部旋律は、いわゆるマーチ形式の常套です。形式は常套といっても、やはりメロディ・ラインにもコード進行にも、新鮮なセンスを感じます。3、7、11 小節目の Horn のハーモニーは、突如来るだけに難しい表現になります。また、フレーズの終わりに半音下降を置く、といった少し今風の感覚も覗かせています。

【D】の前半も、八短調の可愛いメロディが、可愛いオーケストレーションでエポック・ポイントを作り出しています。

<Trio 1> 【E】 【F】

通常 Trio では、多くは下屬調（完全4度上）に転調し、旋律的な中間部を作ります。そして、部分転調を繰り返すブリッジを経て、カウンター・メロディと高音部の華やかな変奏を持って再現します。しかしこの曲ではこの形式をとらず、2つの Trio で構成されており、“オーディナリー（一般的）”とは違った意識が見えます。

Trio 1 は、A・B・A'・C の歌謡形式で出来ています。75、76 小節にみる、旋律の2分音符のクリシェ感覚の動きにも、Pops 感覚が見えます。コード進行は、I→IVm→I を最初に設定し、全体の性格を形付けています。

最近の曲（課題曲マーチ）のような、2分音符以上（2拍以上）の譜割りによる和声のサポートを持たないので、Trombone のキザミ拍に和声感を委ねなければなりません。ただ、後半【F】からは旋律がハーモナイズされていますから、このハモリに充分期待しましょう。

それ以上に、“2nd time”の木管高音部を含め、カウンター・メロディが表現の色彩を与える、重要な役割を持っています。

<Trio 2 > 【G】【H】

もう一度 Trio だぞ、といわないばかりに、再び完全4度上に転調して2度目の Trio を迎えます。マーチの基本形式ですと、Trio が再現されて華やか勇壮に締めくくられるわけです。しかしこの曲の場合、高音部木管群の装飾とカウンター・メロディを持った華やかな全合奏は、すでに Trio 1 の繰り返しで登場していますので、ここでは全く違った楽曲が挿入されています。別のマーチがメドレーのように続くようにも、また長いコーダともとれますし、なんとなく全合奏で終わる、といった雰囲気になっています。前の Trio が大きく広がり、豊かに盛り上がって終わりを迎え、興奮度のワクワク感を思い起こし、マーチの醍醐味をあらためて感じます。

『オーディナリー・マーチ』として、マーチを“オーディナリー”に作曲する難しさ（演奏する側にとっても）は、確固たる形式の存在があるだけに誰もが感じるどころです。やはり、J.P.スーザ氏や C.タイケ氏、K.J.アルフォード氏は偉大です。

2010年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲分析

課題曲の中の課題 2010

監修・著作：櫛田 肤之扶

編集・制作：株式会社ウインズスコア

配布・公開日：2010年6月1日

楽譜引用元：

広瀬正憲・高橋宏樹・長野雄行・田嶋勉・鹿野草平

『2010年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』全日本吹奏楽連盟、2010年2月1日発行

※本書の著作権保有者は、著作者である櫛田 肤之扶であり、櫛田 肤之扶の協力・許諾のもと、(株)ウインズスコアが本書を制作・配布・公開しております。

※本書に掲載されている楽譜の一部は、『2010年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』からの引用であり、全日本吹奏楽コンクール課題曲の権利は、(社)全日本吹奏楽連盟に帰属します。

※本書の配布・コピー等の利用については、本書の内容・目的を理解した上で、金銭の受け渡しが発生しない場合に限り許可いたします。

※本書を使用するの、第三者との紛争・トラブルが発生した場合、著作者・制作者、及び(社)全日本吹奏楽連盟は一切責任を負いません。